

感 染 症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第36週)

(令和8年8月31日～令和8年9月6日)

令和8年9月10日

定点報告(上段:定点当たり／下段:報告数)、全数報告(報告数)		2026年					2025年 合計	2024年 合計
区 分	疾 病 名	33週	34週	35週	36週	合計		
定 点 報 告	インフルエンザ	－	1.00	－	2.00	－	－	－
		0	3	0	6	593	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	－	1.00	1.67	8.33	－	－	－
		0	3	5	25	197	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	31	156	309
	咽頭結膜熱	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	9	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	－	0.50	1.00	1.00	－	－	－
		0	1	2	2	115	243	657
	感染性胃腸炎	0.50	0.50	0.50	1.00	－	－	－
		1	1	1	2	131	430	610
	水痘	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	8	10	6
	手足口病	3.50	10.50	4.00	2.50	－	－	－
		7	21	8	5	125	15	952
	伝染性紅斑	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	－	－	0.50	0.50	－	－	－
		0	0	1	1	20	59	182
	ヘルパンギーナ	0.50	1.00	0.50	－	－	－	－
		1	2	1	0	16	4	19
	流行性耳下腺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	1	10	13
	急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	1	2	9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	－	1.00	－	－	－	－	－
		0	1	0	0	4	16	1
	クラミジア肺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	2.00	1.00	－	1.00	－	－	－
		2	1	0	1	21	42	16
	無菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	－	1.00	－	－	－	－	－
		0	1	0	0	8	39	19
	新型コロナウイルス感染症(入院)	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	22	56	120
	急性呼吸器感染症(ARI)	20.67	42.33	32.33	42.00	－	－	－
		62	127	97	126	6,097	8849	－
全 数 報 告	結核	0	1	0	0	2	4	1
	レジオネラ症	1	0	0	0	4	5	3

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	手足口病の 流行 が見られます。 他、 新型コロナウイルス感染症が増加 しています。
--------	--

インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して増加しました。 県内では第35週から流行シーズンに入り、A型が流行しています。県内の多くの地域で増加傾向が見られるため、注意が必要です。手洗いの徹底や、冷房使用時にも適度な換気を行う等、基本的な感染対策を心がけましょう。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して増加しました。 基本的な感染対策を徹底し、感染に注意しましょう。
手足口病	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して減少しました。 ※警戒中 第32週のピーク以後、減少傾向ですが引き続き注意が必要です。手足口病は、ウイルスの感染によって起こる感染症で、夏季において小児を中心に流行しますが、大人も感染します。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、感染後3～5日で口の中、手足に水疱性の発しんが現れます。予防のため、手洗いを徹底し、タオルの共用を避け、適切に排泄物を処理しましょう。
腸管出血性大腸菌感染症	本県で1例報告がありました。 腸管出血性大腸菌感染症は、ペロ毒素を産生する大腸菌に感染することで起こり、2～9日ほどの潜伏期間の後、激しい腹痛を伴う下痢や血便等の症状が生じます。主に、菌に汚染された食品等を摂取する経口感染により感染し、人から人への感染は、患者の便や菌の付いたものに触れた後、手洗いを十分にできなかった場合などに起こります。食品を十分加熱したり、調理後の食品は早く食べきる等、食品を適切に取り扱い、食事前やトイレ使用後等には石けんと流水による手洗いを徹底しましょう。
レジオネラ症	本県で3例報告がありました。 レジオネラ症は、レジオネラ属菌による感染症で、慢性疾患や加齢等で免疫機能が低下した方や喫煙、大量飲酒者は、肺炎を生じ、重症化するリスクがあります。気温、湿度ともに高い時期に報告が増える傾向にあり、県内では5月下旬より断続的に報告されています。菌が常在する乾燥土壌の土埃や、菌が存在する入浴施設、加湿器等の水場のエアロゾルの吸引による感染が多いので、通常の感染対策とともに、定期的な清掃、防塵対策、施設等での菌検査を行い感染リスクを抑えましょう。

インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症の報告数が増加しています。感染の拡大を防ぐため基本的な感染対策の徹底をお願いします。

・咳やくしゃみ等の症状があるときは、マスクを着用したり、鼻や口をティッシュ等で覆うなど、他の人への感染拡大防止に努めましょう。

・流水・石けんによる手洗いは手指など体についたウイルスを除去するために有効な方法です。こまめな手洗いに努めましょう。

・室内ではこまめに換気をしましょう。窓開けによる換気は、対角線上にあるドアや窓を2か所開放すると効果的な換気ができます。

・普段と体調が異なる場合には、出勤や登校を控えるなどの体調管理に留意してください。